

大学サッカー選手のストレスとパーソナリティとの関連

The Relationship Between Stress and Personality Traits in University Football Players.

1K04A106-3

佐藤 衣里子

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 内田直先生

目的

現在、日本サッカー協会(JFA)は、選手の育成はもちろんのこと、指導者の育成にも力を注いでいる。女子選手の指導法には賛否両輪あるが、基本的に女子を指導する際には、女子特有の心理的要素を考慮して指導を行うようにといわれている。極めて主観的観点からの意見であるが、女子の心理的特長は考慮せずに指導しても良いのではないかと、むしろ考慮しないほうが良いのではないかと感じる。

そこで本研究では、「指導者が、自分と他の選手への接し方の違いに敏感に反応する傾向がある」という女子選手の特徴が果たして本当なのかを判断するために、まず、男女の性格の特徴を確認し、次に、サッカーにおけるストレスに性差が存在するのか、そして、そのストレスへの対応の仕方、つまりコーピング能力に性差が表れるのかを調べることを目的とする。そして、それに見合った指導法を考えていきたい。

方法

1.調査対象・方法

平成 17 年度関東大学リーグ1部に所属する大学の男子サッカー部員 551 名、及び関東大学女子サッカーリーグ1部に所属する大学の女子サッカー部員 373 名、計 924 名を対象に、無記名方式のアンケート調査を行った。

2.使用尺度

Big Five 尺度(辻, 1998)とコーピング尺度(尾関, 1993)を用い、サッカーに対するストレスについては、対人ストレスイベント尺度(橋本, 1997)を参考にオリジナルを使用した。

結果

男子のストレスとビッグファイブとでは、「情緒不安定性」は「指導者葛藤」、「チームメイト葛藤」、「チームメイト劣等」、「指導者磨耗」、「チームメイト磨耗」、「自己嫌悪」、「劣等」と強い正の相関を、「言葉足らず」と比較的強い正の相関を示した。「外向性」は「自己嫌悪」と比較的強い正の相関を示した。「遊戯性」

は「時間的束縛」、「指導者劣等」、「自己嫌悪」と強い正の相関を、「指導者葛藤」、「指導者磨耗」と比較的強い正の相関を示した。「芸術性」は「チームメイト劣等」、「指導者磨耗」、「時間的束縛」、「指導者劣等」、「チームメイト磨耗」と強い正の相関を、「指導者葛藤」、「自己嫌悪」と比較的強い正の相関を示した。女子は、「情緒不安定性」は「チームメイト劣等」、「チームメイト葛藤」、「指導者磨耗」、「チームメイト磨耗」、「劣等」、「後悔」と強い正の相関を示し、「指導者葛藤」と比較的強い正の相関を示した。「外向性」は「時間的束縛」と強い正の相関を示し、「チームメイト葛藤」、「指導者磨耗」、「チームメイト磨耗」、「指導者劣等」、「劣等」と比較的強い正の相関を示した。男女共に、「情緒不安定性」と「チームメイト葛藤」、「チームメイト劣等」、「指導者磨耗」、「チームメイト磨耗」、「劣等」が強い正の相関を示した。

コーピングとビッグファイブについては、男子は「外向性」と「情緒焦点」が強い正の相関を示した。女子は、「情緒不安定性」は「問題焦点他人依存」と強い正の相関を示し、「回避・避難」と比較的弱い負の相関を示した。「外向性」は「情緒焦点」と強い正の相関を示した。「芸術性」は「情緒焦点」と強い相関を示した。男女共に、「情緒不安定性」と「情緒焦点」が強い正の相関を示した。

考察

女子のコーピングで「問題焦点自己解決」と「問題焦点他人依存」とが分かれたのは、とても注意深い結果となった。また、女子選手は、指導者へのストレスを細分化せずに、ひとまとまりにしてしまう特性があるかもしれない。こういった点で女子選手は男子選手に比べて、極端なものにとらえ方をしていると推察できる。

しかし、これを真に受けて、男女で指導法を変える必要はないと感じる。男子のストレス要因の最も多いものも指導者によるものであったので、男女に気をとられすぎず、指導力を磨くことが大切であると感じた。